

難関大学校枠超え挑む

県教委「サポートセンター」開所

国立難関大への進学を希望する県内普通高校の生徒の学習を支援しようと、県教委は1日、「県大学進学サポートセンター」を開所した。生徒は、学校の枠を超えた仲間とともに在宅を中心にオンラインで指導を受け、合格を目指す。

文部科学省のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定されている藤島高志、武生、若狭の4校を



開所式で今後の勉強の取り組みなどを聞く生徒たち
1日、福井市のアオッサ

除く普通高校が対象。進学支援の強化を求める県高校教育問題協議会の答申を受けて県教委が設置した。福井市のアオッサで行われた開所式には登録した2、3年生45人が出席した。同センター長の油谷泉・県高校教育課長は「受験は全国大会で、名だたる全国の高校と同じ場で競う。みんなが高め合っている」とあいさつ。学年と文系

理系によって4クラスに分かれ、今後の学習の進め方を確認した。

大野高3年の本多香帆さん(18)は「大野からでは塾に通うのも遠いし、自宅での勉強法はこれでいいのか悩んでいた。仲間とつながれて安心」と話していた。

同センターには2年生53人、3年生59人の112人が登録。ビデオ会議アプリ「Zoom(ズーム)」を使ったオンラインでの補習など在宅学習支援をはじめ、民間模試の集団受験、合宿を行う。学校とも連携し情報共有する。(後藤奈央)